

コミュニティを基盤とした看護過程を展開した看護学生の思考の特徴

－課題レポート「コミュニティヘルスにおける看護展開とは」の分析より－

菅谷 綾子¹ 佐瀬 真粧美¹ 鳥田 美紀代¹ 島村 敦子¹ 鈴木 裕子¹
矢野 みなみ¹ 小板橋 恵美子¹ 上地 賢¹ 原田 奈美¹ 伊藤 茂理²
美ノ谷 新子²

本研究の目的は、コミュニティを基盤とした事例の看護展開を通して、学生は、コミュニティヘルスにおける看護展開についてどのようなことを考えたのか、履修後に提出された課題レポートの分析から学生の思考の特徴を明らかにし、この科目の意義・課題を検討することである。学生65名の課題レポートを調査データとし、テキストマイニングを用いて分析を行った。その結果、最も頻出度が高かった単語は「対象者」で605回であった。単語と単語のつながり頻度が高かったのは「地域 - 生活」で82回であった。ことばネットワーク分析では、主に「考える」からなるクラスターと、「対象者」「生活」「地域」からなるクラスター、「計画」からなるクラスターの計3つクラスターで構成された。学生は、コミュニティにおける看護展開について、「幅広い」視点から考えることができており、「地域の生活者」として看護の対象者を捉えることができていたと考えられた。

キーワード コミュニティヘルス 看護展開 看護学生 テキストマイニング 思考

I. 序文

日本は、少子高齢社会となり、医療システムは病院完結型医療から地域完結型医療へパラダイムシフトした（牛久保,2019）。

看護師の活動は、病院等の医療施設内にとどまらず、訪問看護等の訪問型サービス、介護保険施設等における入所サービスや通所サービスなど、地域で展開される機会が増えている。そのため地域での看護を志す看護師だけでなく、医療施設内の看護師も対象者が生活するコミュニティの特性を考慮した具体的な看護を考えることができ、お互いの看護をつなげることが求められると考える。

看護基礎教育において、箱崎,久保らが行った研究（2018）では、地域包括ケアシステムに関する教育内容として「地域の特性をふまえた専門職者としての問題解決能力の育成」や「地域における保健・医療・福祉に関する知識の提供」などが実施されていることが明らかになっている。

A大学では、4年次に、学生自身が作成した事例について、その事例が生活するコミュニティで健康障害を持ちながら生きていくための看護過程の展開を行う「コミュニティヘルス看護展開論」を開講している。この科目では、3年次までに学修する主に個人やその家族を中心に捉えた看護展開から、対象者や家族がこれまで生きてきた、あるいは今後も生きていくコミュニティにまで情報収集や計画立案の範囲を拡大する。さらに、病院や在宅の看護師、保健師などの特定の立場からのアプローチだけでなく、介護や福祉、近所の人々も含め、「事例がそのコミュニティで生活し続けるためにはどうしたらよいか」を複合的かつ俯瞰的に思考する看護の視点を教授し、立場にとらわれず、その事例の対象者が生活を続けるためには、何が必要かという視点から計画を学生が立案できることを目指している。

先行研究では、退院支援や地域連携、地域包括ケアシステムに関する実習を通じた学生の学び

1. 東邦大学健康科学部看護学科

2. 前東邦大学健康科学部看護学科

2023年3月27日受理

を明らかにし、教育方法の検討がなされている。4年次の学生が、医療施設の地域連携室・退院支援部門での実習を通して、「短時間で患者・家族の思いを引き出す関係づくり」や「患者・家族が望む退院後の生活に向けての支援」、「患者・家族が望む退院後の生活に向けての支援」(鶴飼, 畑, 2019) や「円滑な療養の場の移行に向けて多職種とチームをつくる」ことや「安心して日常生活に戻れるように配慮して支援する」といった連携の実際や具体的な支援の内容に関する学びが明らかにされている(西崎, 尾崎ら, 2015)。

2～3年次の学生が在宅看護実習の1つに位置づけられた高齢者への家庭訪問実習を通して、地域包括ケアシステムにおける「自助」「互助」について、「高齢者理解につながる要因の気づき」や「対象との信頼関係構築の重要性」等の学びを明らかにした研究がある(小野塚, 家根, 2021)。このように医療施設の看護師や在宅の訪問看護師という立場での学生の学びが明らかにされている。

立場にとらわれず、看護職者として広い視野をもち、対象者が生活し続けるために必要な支援は何かを考えていくことが、地域完結型医療にパラダイムシフトした社会にとっては重要なことであり、看護基礎教育でその広い視野を意識づけることが必要であると考え。また、「コミュニティヘルス看護展開論」を受講した学生の学びを明らかにし、課題を検討することは、地域完結型医療の中の看護実践者を育成する基礎教育の一助になると考えた。

そこで本研究では、学生が、自身の作成した事例のコミュニティを基盤とした看護過程の展開を通して、コミュニティヘルスにおける看護展開についてどのようなことを考えたのか、履修後に提出された課題レポートから学生の思考の特徴を明らかにし、この科目の意義・課題を検討することを目的とした。

II. 方法

1. 用語の定義

本研究では以下のように定義する。

コミュニティ：事例の生活に関連するグループや組織、場、地区など、その事例の対象者が生活する場や、共属感情を持つ人々の集団のことをいう

コミュニティヘルスにおける看護展開：これまで習得してきた健康障害や健康上の問題を有する個人や家族を中心にした看護過程を基盤とし、対象となる人々の属する多様なコミュニティやそのコミュニティの健康状態にまで情報収集やアセスメント、計画立案の範囲を拡大し、対象となる人々が健康課題をもちながら、コミュニティで生活していくために必要な支援を複合的・俯瞰的に考え、実施する看護過程。ただし、本授業における展開は、計画立案までとする。

2. 「コミュニティヘルス看護展開論」の授業の概要

A大学では開学当初より、人々の健康生活を支援する人材を育成することを目的とし、人々の生活や暮らしに注目してきた。その一つとして、個や家族を対象とした看護を学ぶことと並行して、コミュニティに生活する対象者およびコミュニティ全体を対象とした健康支援方法を学ぶためのカリキュラムを組んでいる。1年次ではコミュニティに関する基礎知識を学ぶ授業科目を開講し、地域で生活する人々との関わりを通して、地域における看護の役割等の理解を深めるための実習を行っている。2年次には、地域で生活する人々の健康課題を明らかにするために必要となる地域診断を学ぶ演習科目を開講し、3年次には各専門科目の実習と並行し、地域保健活動の体験から地域特性や健康課題を知り、地域における看護職の役割を学ぶ実習を行っている。

この1年次から3年次にかけて培ってきた知識、考え方を総動員し、根幹となる健康障害や健康上の問題を有する個人・家族の看護過程の

学修を元に、様々なコミュニティで、健康障害を持ちながら生活する人の事例について看護過程を展開するのが「コミュニティヘルス看護展開論」である。

「コミュニティヘルス看護展開論」の到達目標は、①事例におけるコミュニティの特徴を、健康生活の観点から説明することができる②事例の対象者個人が生活を続けていく上での健康課題を述べることができる等である（表1）。

表1 「コミュニティヘルス看護展開論」到達目標

1. 事例におけるコミュニティの特徴を、健康生活の観点から説明することができる。
2. 事例の対象者個人が生活を続けていく上での健康課題を述べることができる。
3. 事例の家族を含めて、生活していく上での健康課題を述べることができる。
4. 事例のコミュニティが抱える健康課題を述べることができる。
5. 事例の健康課題に関連する要因について3つ以上具体的に述べることができる。
6. 健康課題を解決するために支えとなるコミュニティのしくみについて述べることができる。
7. 健康課題を解決するために必要な援助内容と根拠を述べることができる。
8. 健康課題解決のための援助における倫理的課題と対応について説明できる。
9. コミュニティで健康的な生活をしていくために事例を支援する計画を立案し提示することができる。
10. 他者が提示した事例について、質問や自分の意見を述べることができる。
11. 他者が提示した事例を共有し、コミュニティヘルスにおける看護の役割と機能について、論述することができる。

展開を進める事例について説明する。各学生に2、3年次の実習で受け持った患者を想起してもらい、コミュニティで生活していくことを想定した時に、健康課題があり、支援が必要と考えられる事例を1つ選定してもらう。次に学生は、選定した事例の計画を立案する上で必要になる既に持っている情報（対象者の概要、全身状態の概要、対象者の望み、対象者を取り巻く環境等）を記述し、不足する情報は学生自身が考えられる状況を創作し、展開していく事例の情報を具体的にしていく。そして次に学生は、対象者の生活するに関する情報を加えていく。このとき仮定するコミュニティは、選定した患者の実際のコミュニティでは、その実際の具体的にイメージしにくいことが考えられるため、学生自身が住んでいる場所、あるいはコミュニ

ティの様子がわかる場所を事例が生活する場所とすることとし、日常、目にしていることや、Web等を用いてコミュニティの特徴や健康を支える社会資源を実際に探索し、情報収集を行いながら事例を完成させていく。

そして、各学生が選定し創作してきた事例の対象者が生活するコミュニティで、事例の対象者が生き、生活し続けるための計画を立案する。立案した計画については、他学生に提示し、教員も含め意見交換を行っている。

3. 研究対象者

A大学の「コミュニティヘルス看護展開論」を受講した4年生75名のうち本研究の協力に同意した者。

4. 調査データ

対象者が「コミュニティヘルス看護展開論」を履修後に提出した課題レポート（3,200字以内）の内容から、事例の計画立案を通して、コミュニティヘルスにおける看護展開について考察された内容を調査データとした。

5. 分析方法

調査データに対して、Text Mining Studio 6.3（以下TMSとする）を用いてテキストマイニング分析を行った。テキストマイニングは、テキストデータを対象とし計量的方法で分析を行い、大量のテキストデータから分析したい内容に関する何らかの特徴等を見出す手法である。具体的な分析内容を以下に示す。

1) 表記のゆれの統一

「看護師」「看護職」「Ns」などの類似した意味を語は、研究者で確認し同義語として統一した。

2) 単語頻度解析

データの中にどのような単語が、どの程度出現するのかを分析した。

3) 係り受け頻度解析

データ中の単語と単語のつながりとその頻度について分析した。

4) ことばネットワーク分析 (共起分析)

データ中の単語同士の共起関係を有向グラフにて可視化した。一単語をノードと呼ばれる丸で表し、関連の深いノード同士が矢印で繋がって示される。単語頻度が高いほどノードは大きく表示され、太い矢印ほど共起関係が強い。また矢印で結びつき合ったノードの塊をクラスターといい、話題のまとまりを示す。

5) 注目語分析

注目した特定の単語がデータ中にどのように使用されているのかを分析した。

6. 倫理的配慮

対象者への研究参加の依頼は、科目履修後、課題レポートが提出されてから9カ月後に行った。本研究への参加はあくまでも自由意志であり、参加を辞退しても不利益を被らないことを口頭および紙面にて説明を行った。

本研究は東邦大学健康科学部倫理審査委員会の承認を得て実施した (承認番号第20号)。

Ⅲ. 結果

1. 調査データ概要

4年生75名のうち65名から同意が得られた。

分析に用いたデータの総文章数は、1,150で、延べ単語数16,401語であった。品詞の出現回数は、名詞10,788回、動詞3,239回、形容動詞813回の順で多かった。

以下、テキストマイニングで抽出された単語を [], その単語が記述された原文を “ ” で記載する。

2. コミュニティヘルスにおける看護展開に関する考察において頻出度の高い単語

調査データにおいて、出現した単語頻度上位20件を図1に示す。一番頻度が高かったのは [対象者] 605回頻出していた。次に高かったのは [考える] 597回、[地域] 473回、[生活] 453回であった。その他に [必要] 329回、[支援] 304回、[家族] 256回と上位7つが200回以上頻出していた (図1)。

3. コミュニティヘルスにおける看護展開に関する考察において係り受け頻度が高い単語

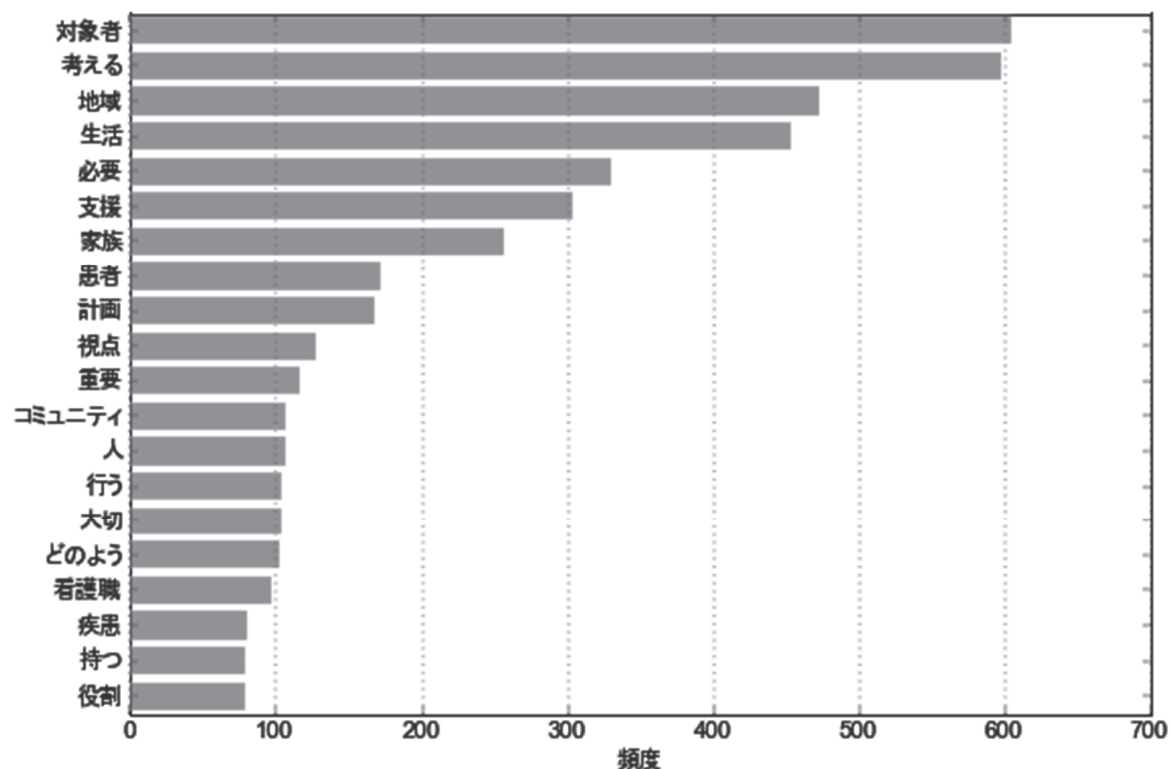


図1 コミュニティヘルスにおける看護展開に関する考察の単語頻出度 上位20

単語と単語のつながり頻度が最も高かったのは「地域・生活」82回であった。原文には、“地域の強みを活かした看護を行うことは地域で長く生活していくことにつながっていく”や“地域では様々なライフステージにある対象者が生活している”などの記述があった。[必要-考える] 80回、[対象者-生活] 60回が50回以上のつながりがあった(図2)。

その他に、[退院後-生活]、[コミュニティ-生活]、[生活-支援]、[生活-考える]といった[生活]が含まれる係受け頻度が上位20の中に含まれていた。[退院後-生活]の原文では“退院後の生活を見据え支援していくことが大切である”といった記述があった。[生活-支援]の原文では、“コミュニティヘルスにおける看護展開とは、様々な対象者が、住み慣れた場所で健康に生活していくことを支援していくことである”といった記述があった。

4. コミュニティヘルスにおける看護展開に関する考察においてことばの共起関係

ことばネットワークは、79個のノード、3つのクラスターとなった(図3)。

ことばネットワークは単語の共起関係を表

し、出現回数が多い単語ほど、ノードが大きく表示される。

1つめのクラスターは「考える」を中心とし、[家族]等からなるクラスターであった。このクラスターにおいて「考える」と共起した単語は30個であった。名詞で繋がりが強かったのは「向上」、「対応」、「姿勢」、「気持ち」、「暮らし」、「人生」であった。「人生」は、“個人の人生やこれまでの生き方、今後の生活をその人単位で考えることが重要である”や“その人にとっての「生活」や「暮らし」、「人生」について考える必要があり…”などの記述があった。それ以外に「個別性」、「希望」、「住民」、「本人」、「不安」、「提案」、「方法」、「知識」、「理解」と共起していた。「住民」は、“各施設や専門職との連携、住民を含めたインフォーマルな支援を活用し、地域で支えることが重要だと改めて考えた”などの記述があった。

「考える」と「家族」は、「傾聴」を介して繋がりを持っており、“家族の方の話を傾聴し、どんなサポートが必要か考えて支援していくことが重要であると考え”などと記述されていた。また「家族」は、「対象者+ない」、「負担」と繋がりが見られた。「対象者+ない」は、“健

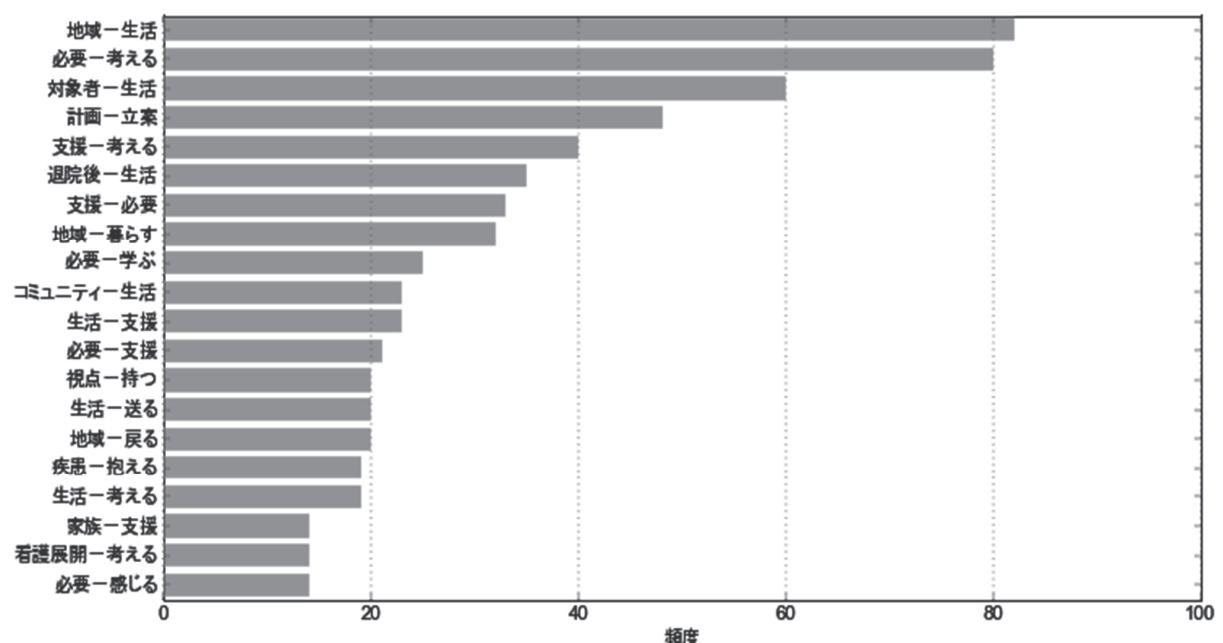


図2 コミュニティヘルスにおける看護展開に関する考察の係受け頻度 上位20

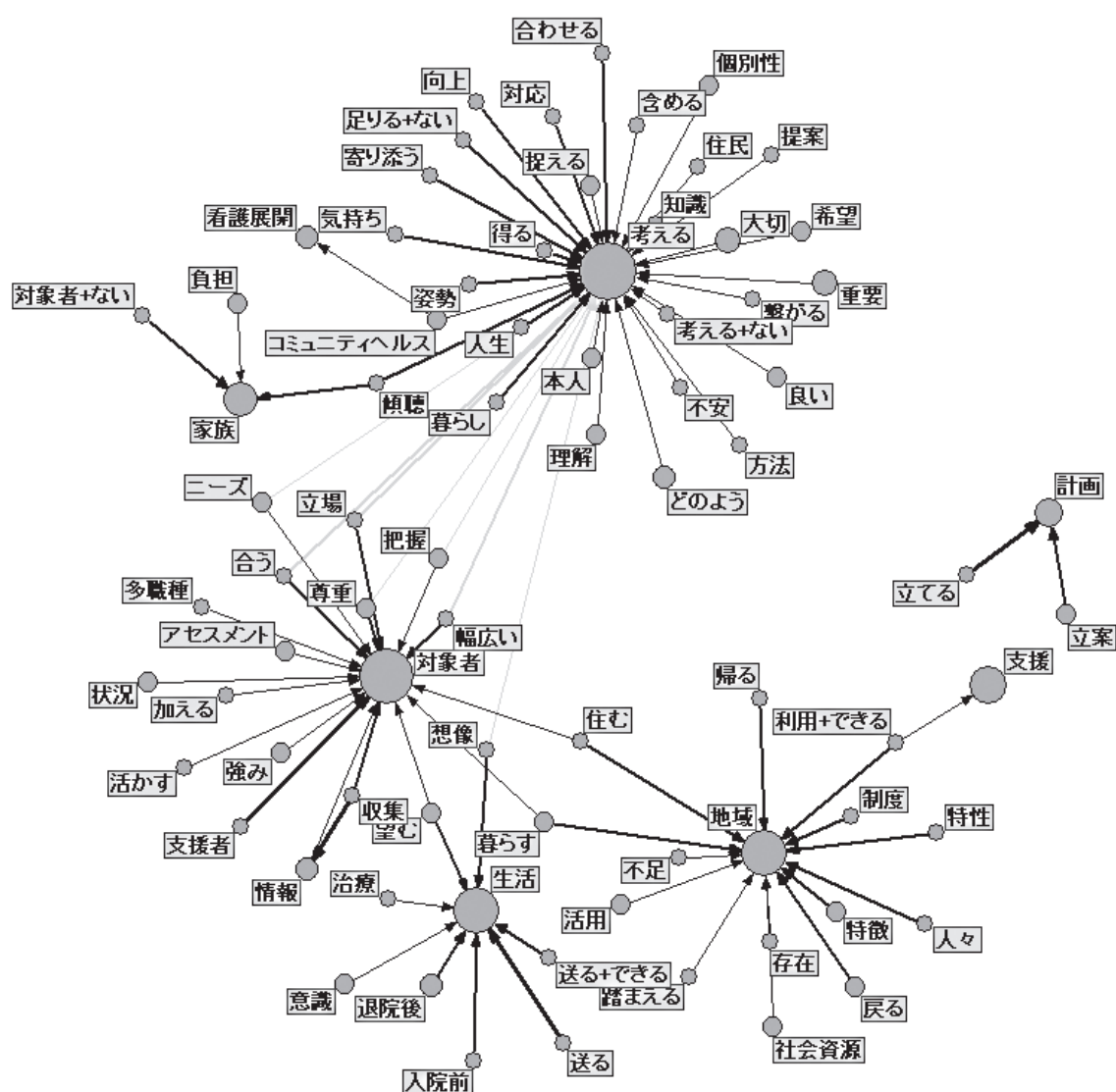


図3 コミュニティヘルスにおける看護展開 に関する考察のことばネットワーク

障害のある対象者だけではなく家族も支援する対象者であることを忘れずに支援していくことが大切である”、“対象者だけでなく家族の情報も収集し…”など記述されていた。

2つめのクラスターは、[対象者]、[生活]、[地域]を中心とし、[支援]等からなるクラスターであった。

〔対象者〕は、〔立場〕、〔支援者〕、〔合う〕、〔収集〕、〔幅広い〕といった単語と共起していた。〔対象者〕は、〔望む〕と共に〔生活〕と共起していた。また、〔対象者〕は〔住む〕、〔暮らす〕のそれぞれの単語と共に〔地域〕と共起していた。

「〔地域〕は〔利用＋できる〕と共に〔支援〕と共に起る関係にあった。『地域で利用することができる社会資源や、支援を計画したが…』や『地域の状況（特徴、利用できる支援・資源、サポートしてくれる人の有無など）を…』などと記述された。

3つめのクラスターでは、[計画] が [立て
る]、[立案] と繋がりがあった。

5. コミュニティヘルスにおける看護展開に関する考察において頻出度が高い単語の使用のされ方について単語頻出度が高かった [対象者]、[生活]、[地域] に注目し、注目語分析を行った。

1) [対象者] について

[対象者] は、係り受けとして [対象者-生活] で57回、次いで [対象者-家族] で51回と [生活] と [家族] とのつながりが多かった。

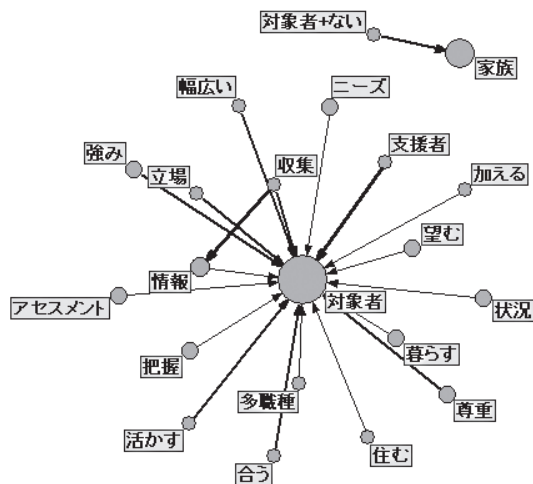


図4 [対象者] のことばネットワーク

[対象者] に注目したことばネットワーク(図4)では、[合う] や [支援者]、[強み]、[尊重]、[活かす]、[立場]、[幅広い] と強い共起関係がみられた。[支援者] では、“対象者が必要な時に必要な医療が受けられるように地域の支援者と地域でつながっていくことも求められると考える”等の記述があった。[幅広い] では、“幅広い視点で対象者を見るためには、看護者自身がコミュニティに対する十分な知識が…”や“在宅で療養する対象者の疾患は幅広い”などの記述があった。[尊重] では、“今までの対象者の生活様式や習慣を尊重していく必要がある”や“対象者や家族の希望を尊重し、看護職は時に意思決定支援を行う…”などの記述があった。[強み] は、“対象者の強みや趣味を活かすことができるような…”や“対象者の持っている強みを理解し、強みを活かしながら…”などが原文にみられた。

その他にも [望む] や [ニーズ]、[多職種] といった単語とも関連がみられた。[望む] では、“対象者の望む生活ができるように専門職として調整していく必要がある”や“対象者がその支援を望んでいるのか確認し、押し付けることのないように関わる…”などの記述

があった。

[家族] は [対象者] と直接的なつながりは見られないが、[対象者] のことばネットワーク上に出現していた。

また、[収集] と [情報] は、一緒に [対象者] と共起していた。

2) [生活] について

[生活] は、係り受けとして [地域-生活] 77回、[対象者-生活] 57回、[退院後-生活] 34回と繋がりが示された。

[生活] に注目したことばネットワーク(図5)では、[送る]、[送る+できる]、[望む]、[入院前]、[退院後] といった単語と強い共起関係がみられた。[送る] では、“対象者がコミュニティにおいて安心して満足した生活を送るためには、看護師のみの力では不可能であり…”など原文で記述されていた。[入院前]、[退院後] は、原文に“入院前からの情報などをもとに、退院後の生活を考えていくことができるように…”や“病院で入院している患者も入院前や退院後はコミュニティで生活を送っているため…”といった記述があった。

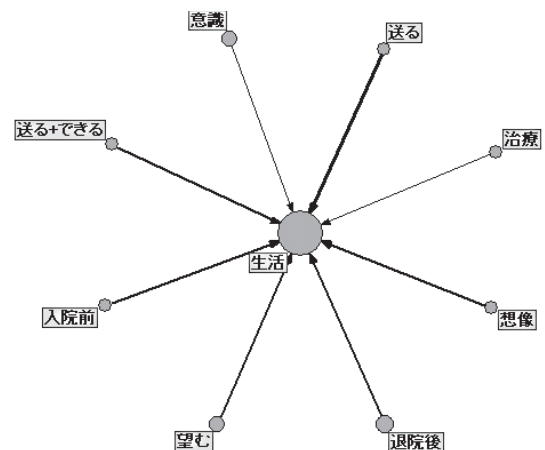


図5 [生活] のことばネットワーク

3) [地域] について

[地域] は、係り受けとして [地域-生活] が最も多い繋がりがあったが、その他に [地域-暮らす] 31回、[地域-特徴] 21回、[地域-戻る] 20回と繋がりがみられた。

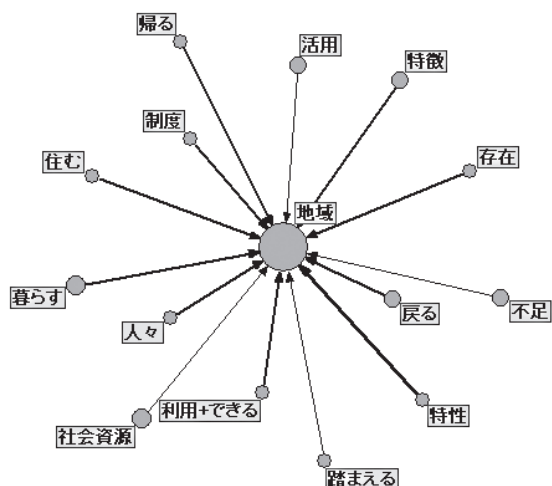


図6 「地域」のこばネットワーク

「地域」に着目したこばネットワーク（図6）では、「特性」、「人々」、「暮らし」、「存在」、「利用+できる」と強い共起関係がみられた。「特性」では、「地域の特性と対象者の状況を踏まえ、対象者の支援体制を新たに構築していけるように…」などの記述があった。

その他に「制度」、「社会資源」、「活用」、「帰る」、「戻る」とも共起関係がみられた。「制度」の原文として「地域での様々なサービスや制度、事業といったものを活用し…」や「地域の社会資源や制度を活用すること、地域の活動に参加すること…」などが記述されていた。「帰る」は、「地域に帰ってからの支援など、病院の看護師では行いきれない部分は…」などが記述されていた。「戻る」では、「地域に戻った後の対象者の暮らしを支える支援を考える力を臨床でも発揮していく…」といった原文があった。

IV. 考察

1. コミュニティヘルスにおける看護展開に関する学生の思考の特徴

単語頻度分析で「地域」、「生活」、「コミュニティ」といった単語が高頻度でみられ、係り受け頻度分析でも「地域-生活」、「対象者-生活」、「退院後-生活」、「地域-暮らし」といったように「地域」、「生活」の単語とのつながりの頻度が高い特徴がみられた。またこばの共起

関係では、「対象者」、「生活」、「地域」が1つのクラスターとなって共起していた。さらに「対象者」、「生活」、「地域」のクラスターでは、「対象者」と「生活」は「望む」と共に共起していた。これらの結果から、学生は「対象者」が「地域」で「生活」していることを重視し、「対象者」の「望む」「生活」は何かを考えているという特徴が明らかになった。

ソーシャルワーカー等の他職種の指導を受けたり、理学療法士等と共に家庭訪問を行った実習を行った学生が、患者や家族の視点に立った援助として、「地域をみる」、「生活者としてみる」ことを理解していたことが明らかになっている（高尾,古城ら,2018）。また、高齢者への家庭訪問を行った学生は、地域を歩くことで高齢者の生活の大変さや便利さに気づいており（小野塚,家根,2021）、学生が実際の生活状況を見ることで対象者が地域で生活していることに注目できていると考える。

「コミュニティヘルス看護展開論」では、事例の対象者や家族が生活していく上での健康課題や事例のコミュニティが抱える健康課題を述べることを到達目標としてあげている。学生はまず、対象者やその家族のコミュニティにおける生活をイメージする必要がある。

学生は、実習で受け持った患者を選定し、事例を作成していく中で、高尾ら（2018）の研究の実際に家庭訪問を行い対象者の生活を目にした学生と同様に「対象者」が「地域」で生活していること重視し、対象者の生活や地域、コミュニティについてイメージしながら看護展開を行っていたことが考えられる。

頻出度が高かった「対象者」と「家族」は直接的なつながりはないが、共に出現していた。そして「家族」は、「対象者+ない」と共起関係にあった。この結果から学生は、コミュニティヘルスにおける看護展開で、「対象者」と共に「対象者+ない」、すなわち対象者だけではなく「家族」についても考えていた。

対象者が地域で生活していくためには、共に

生活する家族は大切な存在である。退院支援部門の実習を行った学生は、「患者と家族の思いをくみ取る」(西崎,尾崎,2015)ことや「患者・家族が望む退院後の生活に向けての支援」(鶴飼,畑,2019)を学んでいたように、「コミュニティヘルス看護展開論」を受講した学生も同様に家族にも注目していたことが考えられる。

「対象者」は「幅広い」と強い共起関係があった。これは、学生が「対象者」を幅広く、すなわち多面的に捉えていこうとしていたことやコミュニティヘルスにおける看護展開の「対象者」が、「幅広い」という認識をもっていたのではないかと考えられる。

また、「対象者」は、「強み」とも強い共起関係がみられており、コミュニティヘルスにおける看護展開において、学生が「対象者」について着目した1つであると考えられる。病院から退院する際は、できないことに注目されてしまいがちであるが、山田(2020)が述べているように『『できること』を探すことで支援の糸口がみつかる』ため、学生が「対象者」の「強み」を考えることは、大切な点であると考えられる。

「地域」は「特性」と強い共起関係があるという特徴がみられた(図6)。「コミュニティヘルス看護展開」の授業では、事例の住む地域、コミュニティも学生が実際に居住している地域をベースに、実際にその地域にどのような「特性」があるのか、情報収集しながらイメージを膨らませて架空の地域・コミュニティを作成させたことに関連があると考えられる。

ことばの共起関係のクラスターの1つである「考える」は、30個もの多くの単語と共起関係があった(図3)。実習を通して医療施設の看護師や訪問看護師の立場に立った学生の学びには、対象者に関する学びの他に「対象との信頼関係の構築の重要性」(小野塚,家根,2021)といった対象者や家族への関わり方に関するものや看護者としての課題に関するものが明らかになっている(高尾,古城ら,2018, 西崎,尾崎,2015)。「コミュニティヘルス看護展開論」を受講した学生は、同様に対象者に関わる際の

「姿勢」や「対応」や「知識」といった看護職としての在り方についても考えていた。それ以外にも対象者、「本人」だけでなく、「住民」について考え、その他に「足りる+ない」すなわち足りないものは何か、「向上」できるものは何かを考えているという特徴があった。その中でも「人生」や「気持ち」、「暮らし」といった単語と強く共起しており、看護展開をする中でも特に学生が着目した点なのではないかと考えた。

2. 「コミュニティヘルス看護展開論」の意義と課題

2011年の介護保険法改訂から、住み慣れた地域で生活を継続することができるような包括的な支援・サービス提供体制を整える地域包括ケアシステム(石垣,上野編,2018)の構築が推進されてきた。さらに2016年に厚生労働省は年齢や疾患・障害を問わず様々な人が地域で安心して生活していく地域共生社会の実現を目指すことを打ち出した。今後ますます療養の場は病院だけでなく、地域の自宅や施設となっていく。牛久保(2019)が述べているように「看護師は看護の対象者が患者ではなく地域の生活者である」ことを念頭におく必要があると考える。

「コミュニティヘルス看護展開論」を通して学生は、自ら作成した事例の対象者の望む生活を考え、対象者が暮らす地域特性を考え、家族を含む対象者を幅広くとらえ、地域の生活者として考えることができていたのではないかと考える。

自治体が実施する保健福祉事業への参加と訪問看護ステーションにて同行訪問を行う地域看護学実習を通じた学生の学習成果として、「行政における看護活動ではボランティアの力といった地域住民の力」や「住民主体の視点」、「在宅における看護活動として、「在宅で療養する人々にはさまざまな環境、地域特性がある」、「生活の場における看護の提供」、「対象者が暮らすコミュニティがケアの対象」等が明らかになっている(魚里,森田ら,2011)。保健師や訪問

看護師の2つの立場の活動を通した学びにそれぞれ含まれていた「地域住民」、「生活」「コミュニティ」等が今回明らかになった思考の特徴に含まれていたことから、立場にとらわれずに考えることができたのではないかと考える。

看護師が看護の対象者と対象者が住む地域や周囲の状況を幅広く捉え、必要な情報を収集しアセスメントすることができれば、看護師が所属する場がどのような場であっても、対象者に合った、対象者の思いに寄り添う看護を提供することにつながると考える。

「コミュニティヘルス看護展開論」の今後の課題として、事例の対象者を地域の生活者として捉えることができた反面、「健康」、「健康課題」といった単語や対象者への看護に関する単語が分析から抽出されなかったことが挙げられる。生活者として考えた事例は、障害をもち、健康課題があるということも含んでいるはずであるが、授業では、視野を広げ、幅広く生活するコミュニティの情報収集等を行い、生活をどのように支えるかということが中心となる計画を立案したため、課題レポートにおいては、対象者の「健康課題」という視点が出てこなかったのではないかと考える。今後、授業中に提出された学生のレポートを分析し、実際に学生が自ら作成した事例に対して、どのようにアセスメントし看護計画を立案していったのか明らかにする必要があると考える。

今後は、授業の中で事例は、生活の中で健康課題に向き合ったり、時に背を向けながら生きていること、健康課題と生活の結びつきをより意識できるようかわり、幅の広さだけでなく、対象者を深く捉えることができるように働きかける必要があると考える。

V. 利益相反

本研究における利益相反はない。

引用文献

箱崎友美,久保仁美,神田清子 (2018): 地域包括ケア時代の保健・医療・福祉を担う人

材に対する教育内容の分析 地域志向型の看護基礎教育内容の検討. 群馬保健学研究 38巻 p23-33

厚生労働省 (2016): 「地域共生社会」の実現に向けて. <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000184346.html> (2023年2月10日 アクセス)

西崎未和,尾崎章子,其田貴美枝,畑中晃子,御任充和子,山本由香,新井有希子 (2015): 看護基礎教育における退院支援実習の学習成果. 日本在宅看護学会誌3巻 2号p74-83

小野塚元子,家根明子 (2021): 地域包括ケア時代における在宅看護実習のあり方についての検討—地域住民とともに行った高齢者への家庭訪問実習での学生の学びの分析より— 長野県看護大学紀要23巻p1-12

関睦美,吉川峰子 (2020): A短期大学における退院支援部門で在宅看護論実習を行った看護学生の学びの評価: 日本在宅看護学会誌第8巻 2号 p41-50

高尾茂子,古城幸子,池永理恵子,和泉とみ代 (2018): 看護学生の統合実習における地域連携実習を通した学び,第48回日本看護学会論文集 看護管理 p99-101

鶴飼知鶴,畑吉節未 (2019): 地域医療連携室実習での学習成果. 癌と化学療法46巻Supplement I p69-71

魚里明子,森田智子,中世古恵美,神山幸枝 (2011): 総合カリキュラムにおける地域看護学実習の学習成果と課題. 関西看護医療大学紀要 第3巻 1号 p18-28

牛久保美津子編 (2019): 地域完結型看護をめざした看護教育 地域包括ケア時代の実習指導. メヂカルフレンド社

渡辺裕子監 (2021): 家族看護を基盤とした地域・在宅看護論第5版. 日本看護協会出版会. 山田雅子 (2020): 次の世代に託せる看護とは何か. 看護教育, vol.61 (6), p464-470

山本容子,岩脇陽子,滝下幸栄,室田雅子,光本かおり,中村順子,小城智圭子 (2017): 看護学士課程1年から開始する在宅ケアに向けた継

菅谷 綾子 他：コミュニティを基盤とした看護過程を展開した看護学生の思考の特徴
－課題レポート「コミュニティヘルスにおける看護展開とは」の分析より－ 101

続看護の効果的な教育方法の検討. 京都医
大看護紀要27巻p71-76

Characteristics of the Thinking of Nursing Students who Developed Community-Based Nursing Processes

-Analysis of student assignment reports-

Ayako SUGAYA¹ Masami SASE¹ Mikiyo TORITA¹ Atsuko SIMAMURA¹
Yuko SUZUKI¹ Minami YANO¹ Emiko KOITABASHI¹ Ken UECHI¹
Nami HARADA¹ Shigeri ITO² Shinko MINOTANI²

¹Toho University, ²Former Toho University

The purpose of this study is to examine what students think about nursing development in community health through community-based cases of nursing development and to analyze the characteristics of students' thinking from an analysis of assignment reports submitted after taking the course. The research aimed to examine the significance and issues of this topic. Altogether, 65 students' assignment reports were used as survey data and analyzed using text mining. Results show that the word with the highest frequency was [subject] (605 times). The frequency of word-to-word connections was high for [community - life] (82 times). The language network analysis consisted of three clusters: one cluster consisting mainly of [thinking], one consisting of [subjects], [living], and [area], and a third cluster consisting of [planning]. The students were able to consider the development of nursing in the community from a [broad] perspective, and it seems that they were able to understand the topic of nursing as a "resident of the community."

Key words community health Nursing deployment nursing student text mining
thinking